

高圧蓄電所（系統用蓄電所）の全国件数 推計レポート

ー 需給調整市場（一次調整力オフライン）の実取引データによる実測ベース推計 ー

2026 年 10 月 1 日 EMCcore 株式会社

1. 結論

高圧蓄電所の件数を直接示した公表統計は存在しない。しかし需給調整市場・一次調整力（オフライン）の実取引データを使えば、稼働中の基数を実測に近い形で捕捉できる。**稼働中は 370～520 件、中心値で約 430 件と推計される。**基数は増え続ける一方で、単価は 9 月に急落している。

開発段階	推計件数	根拠
接続検討の申込中	年間 1 万件規模	2025 年度の高圧・接続検討受付 11,602 件（全電源／蓄電池 86%）。大半が「空押さえ」で実体を伴わない。
契約申込～接続契約締結済 （建設前・建設中）	2,000～3,000 件	2025 年度の高圧・契約申込受付 2,153 件（全電源／蓄電池 74%）。過年度分を累積。今後 2～3 年で順次運開。
運転開始済み （稼働中）	370～520 件 【中心値 約 430 件】	一次オフラインの実測応札件数 259 件（2026 年 9 月）を参加率で割戻し、連系済み容量からの逆算と突合。

2. 推計① 一次調整力オフラインの実取引データ（EPRX 2026 年 1～9 月）

*9 月は速報値（1～8 月は確報値）。3 月は月内で 180 分ブロックから 30 分ブロックへ移行。応札件数はエリア別の月内最大値を 9 エリアで合計した値。

2026 年（一次オフライン）	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月*
募集量 平均 [MW]	1,140	1,155	581	501	498	497	496	497	498
応札量 平均 [MW]	84	101	119	155	201	256	323	365	418
約定量 平均 [MW]	80	95	102	132	171	175	206	237	266
平均約定価格 [円/kW・30 分]	18.15	18.13	12.24	12.24	12.48	11.69	10.20	9.59	5.95
応札件数 月内最大 [件]	61	72	87	116	128	175	206	235	259

- 一次調整力オフラインは、EPRX 取引規程上の参入要件が「設備容量 1MW 以上 10MW 未満」で、10MW 以上はオンライン接続が必須。蓄電池の落札シェアは 98.9%であり、実質的に高圧蓄電所専用の商品である。
- 1 件あたりの平均約定量は 1.84MW（1 月）から 1.92MW（9 月）で推移している。応札 1 件が 2MW/8MWh 級の高圧蓄電所 1 基に対応することが実データで裏付けられており、件数をそのまま基数として読める。
- **応札件数は 1 月 61 件から 9 月 259 件へ増加した（月平均 約 25 件増）**。これが「稼働中かつ一次オフラインに参加している高圧蓄電所」の実測値であり、全体の下限となる。一次オンライン・複合商品への参加、スポット／時間前市場専門のマーチャント運用、運開直後で未登録の分を考慮し、オフライン参加率を 50～70%とみて割り戻すと 370～520 件。

3. 推計② 連系済み容量からの逆算（クロスチェック）

- 系統用蓄電池の連系済み容量は 64 万 kW（2025 年 12 月末）から 84 万 kW（2026 年 3 月末）へ増加した。同ペースの伸びと足元の加速を織り込むと、2026 年 9 月時点は 120～135 万 kW。
- ここから特別高圧（25～30 万 kW）と低圧（3～5 万 kW）を控除した残差は約 90～105 万 kW。これを 2MW で割ると 375～525 件となる。推計①と重なる領域は 375～520 件で、中心値を約 430 件と置いた。

4. 9 月の単価急落と収益環境

- 需給調整市場の上限価格が 15 円から 10 円へ引き下げられ、2026 年 9 月 1 日の実需給分から適用された（対象は一次調整力・二次調整力①・複合商品。二次調整力②・三次調整力①は 7.21 円で据置、三次調整力②は上限なし）。事前試算では影響が全国▲8.6%、商品別では一次オフラインが最大の▲22.1%とされていた。
- 実績はこれを上回る下落となった。9 月の平均約定価格は 5.95 円で、8 月の 9.59 円から 38%の低下。

2026 年 9 月	上旬（1～10 日）	中旬（11～20 日）	下旬（21～30 日）	月平均
日次平均約定価格 [円/kW・30 分]	6.65	5.65	5.54	5.95

- 上限価格の影響が一巡したはずの中旬以降も下落が止まっていない。月初 7.62 円（9/1）から月末 5.22 円（9/30）まで、月を通じて下がり続けた。
- 原因は応札の急増にある。9 月の応札量は 418MW で、募集量 498MW の 84%に達した。これに対し約定は 266MW にとどまり、応札の約 36%が不落札。枠を取り合う価格競争が単価を押し下げている。約定率は 47.6%（8 月）から 53.4%（9 月）へ上昇した。

5. エリア別の状況（2026 年 9 月）

エリア	8 月 応札 件数	9 月 応札 件数	増減	9 月 平均約定価 格	所見
北海道	4	4	0	1.31	参入が進まず、単価も全国最低。
東北	19	20	+1	9.51	応札が少なく全国最高値を維持。
東京	59	65	+6	8.55	応札が厚くても単価が崩れていない。
中部	62	70	+8	3.59	応札全国最多。単価が崩壊した。
北陸	2	2	0	3.17	市場が立ち上がっていない。
関西	20	22	+2	3.05	応札の伸びに対し単価が低い。
中国	20	23	+3	3.08	同上。
四国	3	2	▲1	2.76	募集量が小さく参入余地が乏しい。
九州	46	51	+5	2.92	応札急増で単価が大きく低下。
合計・月平均	235	259	+24	5.95	

- 単価はエリアによって 3 倍以上の開きがある。応札が厚いほど単価が低いという関係が明確で、中部は応札件数が全国最多の 70 件となった結果 3.59 円まで崩れた。例外は東京で、応札 65 件と中部に次ぐ厚さながら 8.55 円を維持している。東京エリアの案件は当面、相対的に有利な位置にある。

6. 留意点

- 9月は速報値である。確報値の公表は通常2～3か月後で、8月の例では応札件数が230件（速報）から235件（確報）へ上方修正された。9月についても同程度の上振れ余地がある。
- 最大の不確実性はオフライン参加率の前提（50～70%）にある。±10ポイントの振れで推計値は±70件動く。参加率は実測できないため、精度を上げるには事業者へのヒアリングが必要となる。
- 一次オフラインの募集枠は約500MWで頭打ちである。応札は既に418MWまで来ており、この増勢が続けば2026年度内に応札が募集量を超える。単価下落と非落札の増加は構造的に続くため、一次オフライン専業での収支は成り立ちにくくなる。

出典：電力需給調整力取引所（EPRX）「需給調整市場 取引結果（一次オフライン）2026年1～9月」／OCCTO「発電設備等系統アクセス業務に係る情報の取りまとめ」／資源エネルギー庁 需給調整市場・次世代電力系統 WG 資料／ScienceX／Postation

免責事項

本資料は、公開情報および信頼できると判断した情報に基づき作成したものであり、市場環境や業界動向を理解するための参考資料です。記載内容の正確性・完全性について保証するものではなく、本資料の利用により生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。